

存在の証拠 タイプ標本発見

高野温子主任研究員

「タイプ標本」という言葉、耳にしたことはありませんか？ 仮に、あなたが新種の生き物を発見したとします。動物でも植物でも、未知の生き物に名前を付けて世に知らしめるときは、

命名規約に沿った手続きを踏む必要があります。従わなければ、名前の発表は無効とみなされます。

寄贈のタケササ類12点

す。その際、新種の存在証拠となる標本を論文で引用しなければなりません。

形態的な特徴を詳しく説明し、よく似たほかの生物と

引用された新種の標本が後々、タイプ標本と呼ばれます。タイプ標本は、生き物の「メートル原器」です。

どう異なるかを議論した論文を書いて、学術雑誌や本

物で発表する必要があります。タイプ標本と一口にいつて

ざっくりいうと、新種の

「アイソタイプ」と呼ばれます。新種を記載した論文の中に、タイプ標本とは別に「これも新種です」と引用された標本があれば、それは「パラタイプ」となります。昔はタイプ標本を1枚だけ指定することをせずに何点かの標本を論文中に引用することが多かった

ので、引用された標本は全て「シンタイプ」と呼ばれます。

現在、ひとはくでは頌栄短大植物標本コレクション展を絶賛開催中です（9月13日まで）。日本から絶滅してしまっただカノホシクサ標本、牧野氏が1894年に採集したミヤコザサのシンタイプ標本など、貴重な標本を一挙に公開していきますので、ぜひ実物をご覧ください。



牧野富太郎が1894年に採集したミヤコザサのシンタイプ標本



タカノホシクサの標本

ひとはく
研究員
だより